

夏の工作「陶芸教室☆平皿作り」

(担当： 子ども家庭部 児童課 栄町児童館)

事業の背景・目的

東村山市内 5 つの児童館では、子ども達の健やかな成長と豊かな情操を育む活動を通して、児童の健全育成を図っている。5 館の合同事業として児童館子どもフェスタを実施しており、「夏の工作教室」はその取り組みの一つである。学校が休みの期間であることから、特別の体験感があり、作成した児童が未永く愛用できるものというコンセプトで、各児童館が作品を決定している。

栄町児童館では、市内在住の陶芸家の先生に来ていただき、陶芸教室を実施。土をこねて作品作りができる「陶芸」は、粘土遊び感覚でのびのびと楽しむことができ、感性や想像力の発達に大きなプラスになる。子どもの育成を通して地域の方とつながり、共に活動する機会を設けることで、子どもを地域社会で育てる環境をつくり出すことにもつながると考える。

事業の概要



今回は「平皿」に挑戦。粘土の丸い塊をもらってひんやりとした感触を楽しむところから始まり、まずは平皿の形を作る。粘土の塊を叩いて伸ばして棒で平たくして…と、お皿を作る作業はけっこうな力と根気がいる。ようやくお皿の形ができたところで、色の違う 2 色の粘土をもらい、お皿の上に乗せて絵や模様を作っていく。お花畑やピザや顔、クワガタ、トンボ、カブトムシなど、子ども達の豊かな想像力に驚かされる。それぞれに工夫して、夢中になってとても素敵に仕上げていた。1 ヶ月後に引き取りに来ていただき、出来上がったお皿を見て喜んで持ち帰る子ども達。じっくりと陶芸を楽しむことができ、とても良い体験になったようだ。

毎年人気の教室なので、申し込みは募集人数を上回り抽選となった。コロナ禍の密を避けるため 1 回の枠を 10 人として 1 日に 3 回を 2 日間行い 60 人の児童が参加した。道具や材料は先生が用意して下さり、館内の図書室・集会室をつなげて 1 部屋として使用。先生の指導の下、職員 1 名がサポートに入り実施した。

工夫点・留意点

緊急事態宣言中の開催だったので、検温、消毒、マスクの着用を徹底し、保護者の見学についてはお断りさせていただきました。

また、1回の人数枠を10人に減らしても、回数を増やすことで例年並みの参加者を確保できた。お皿の絵付け方法は筆の共有使用はやめ、各自配布された粘土で絵や模様をつける方法にした。



事業の効果

「夏の工作教室」は市報にも掲載され、ポスター掲示やチラシも配布されるので、広く市民の目に留まり易く、児童館事業のよいPRにもなっている。

「陶芸」は、作った作品を日々の生活に役立てられるのも魅力のひとつ。自分が作ったお皿で食事をすることで、物に対する愛着を持てるようになったり、食に興味をもち、会話を楽しみながら団欒するきっかけとなったとの声もいただいた。

粘土に触れて手先を動かす作業を通じて手から脳に送られる刺激は脳が活性化し、知性の発達を促すと言われている。そして、自分の手で作品を完成させる喜びや達成感が味わえる。

また、地域の方の力をお借りすることは、地域社会全体で子育てをするという意識に立ち、協力的なネットワークを築いていく可能性を広げることができる。

課題・今後の展開

個々の家庭を超えた地域での子育ての共同意識が希薄になっている今、たくさんの地域の方と実際に接点を持ちながら、子ども達の生活を支援するネットワークの拠点として、児童館本来の役割・機能を果たすことが重要であると考えます。

今後も地域の方々とのつながりを大切にしながら連携を図り、子育てがしやすい地域づくりのため、児童館事業に反映させていきたい。